

鈴木 明彦¹: 北海道厚田沿岸への暖流系岩礁性巻貝レイシガイの漂着Akihiko SUZUKI¹: Warm-water rocky-shore gastropod, *Thais bronni*, washed ashore on the coast of Atsuta, central Hokkaido

レイシガイ *Thais bronni* は、西北海道より南に分布するアッキガイ科の巻貝である (肥後・後藤 1993; 土屋 2000)。西北海道の岩礁潮間帯ではよく見られる種である (波部・伊藤 1965) が、2007年には中央北海道の望来海岸でその漂着が初めて確認された (鈴木 2008)。今回望来海岸のさらに北側の厚田沿岸 (図1) において、打ち上げられたレイシガイを採集したので、その概要を報告する。

厚田は、日本海に面した石狩市中部に位置する。この付近はほぼ北北東に海岸線が連続する典型的な外洋性海岸である。海岸段丘を構成するのは新第三系の堆積岩類 (望来層~当別層) で、それらは侵食され海食崖となる。今回レイシガイを採集したのは、北から厚田浜、古譚浜及び嶺泊浜である (図1 A, K, M)。これらの小規模な砂浜は、どれも海食崖の間にみられるポケットビーチである。

レイシガイはいずれも2009年5~7月にかけて採集された。採集されたのは合計3個体 (図2) である。これらは、どれも螺層や体層がほぼ保存されている。また、殻表面には4列の太い螺肋が認められ、螺肋上には丸く大きな結節がある。殻口内部は黄橙色を示す。貝殻の殻長は、厚田産 (図2左) 35.3mm, 古譚産 (図2中) 60.8mm, 嶺泊産 (図2右) 44.5mmで、いずれも成貝と判断される。

2005年以降、北海道の石狩湾沿岸では暖流系生物の漂着が相次ぐようになった。これらの暖流系生物は、ムラサキダコ *Tremoctopus violaceus gracialis*, エチゼンクラゲ *Nemopilema nomurai*, ギンカクラゲ *Porpita pacifica*, ココヤシ *Cocos nucifera* などの南方系要素 (鈴木 2009) で、貝類でも従来見られなかった暖流系種が出現している。浮遊性貝類では、アオイガイ *Argonauta argo* (鈴木 2006; 志賀 2007) の大量漂着や、2007年にルリガイ *Janthina prolongata* (鈴木・志賀 2008) の漂着が記録された。一方、底生貝類では2006年にトリガイ *Fulvia mutica* の大量漂着 (鈴木・志賀 2007) が認められた。

複数の地点でのレイシガイの出現は、本種が厚田沿岸の岩礁海岸に定着した可能性が高いことを示唆する。石狩湾周辺で初めてレイシガイ (2個体) が記録されたのは2007年8月 (鈴木 2008) であったが、その後もこの海域では特に冬季の海面温度が平均値より高い傾向が続いている (気象庁 HP)。このためレイシガイは石狩湾周辺で繁殖・成長することが可能になったと推察される。岩礁潮間帯の貝類は生息域が限定されるため、海面水温変動のモニタリング指標として利用されている (Barry et al. 1995)。本報告のレイシガイは、暖流系種が日本海北部の海水温上昇に適応し、その分布範囲をより北方に拡大した一例として注目されよう。

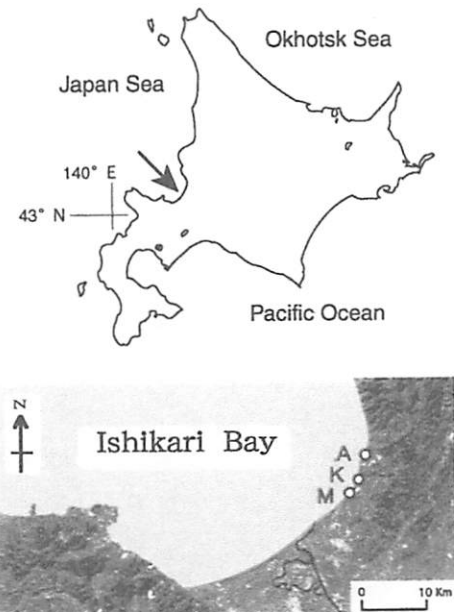


図1. 北海道石狩市厚田区の位置。厚田 (A), 古譚 (K), 嶺泊 (M)。

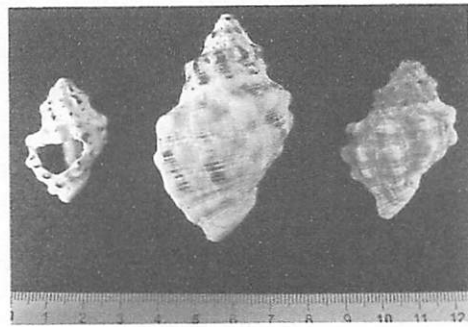


図2. 厚田沿岸産のレイシガイ。厚田 (左), 古譚 (中), 嶺泊 (右)。

参考文献

Barry, J. P., Baxter, C. H., Sagarin, R. D. and Gilman, S. E. 1995. Climate-related, long-term faunal changes in a California rocky intertidal community. *Science* 267 : 672-675.

波部忠重・伊藤 潔 1965. 原色世界貝類図鑑 (北太平洋編). 195pp. 保育社, 大阪.

肥後俊一・後藤芳央 1993. 日本及び周辺地域産軟体動物総目録. 693pp. エル貝類出版局, 八尾.

気象庁 HP <http://www.jma.go.jp/jma/index.html> (2010年1月参照)

志賀健司 2007. 北海道石狩湾岸におけるアオイガイの大量漂着. 漂着物学会誌 5 : 39-44.

鈴木明彦 2006. 北海道石狩湾へのアオイガイの漂着. ちりぼたん 37 : 17-20.

鈴木明彦 2008. 北海道室来海岸への暖流系岩礁性巻貝レイシガイとイボニシの漂着. 漂着物学会誌 6 : 23-24.

鈴木明彦 2009. 海岸漂着物から読む地球環境. *Ship & Ocean Newsletter* (203) : 6-7.

鈴木明彦・志賀健司 2007. 北海道におけるトリガイの緯度分布と地質記録. ちりぼたん 38 : 116-121.

鈴木明彦・志賀健司 2008. 2007年秋における北海道石狩湾へのレイシガイの漂着. ちりぼたん 39 : 22-24.

土屋光太郎 2000. アッキガイ科. 奥谷喬司 (編著). 日本近海産貝類図鑑. pp.365-421. 東海大学出版会, 東京.

(Received Feb. 23, 2010; accepted Mar. 18, 2010)

¹ 〒002-8502 札幌市北区あいの里5-3-1 北海道教育大学札幌校地学研究室

¹ Department of Earth Science, Sapporo Campus, Hokkaido University of Education, Ainosato 5-3-1, Sapporo 002-8502, Japan



図1. 北海道石狩市東田原の位置. 衛星画像 (A), 航空写真 (B), 地形図 (C).

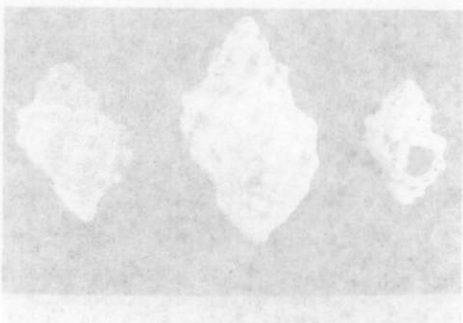


図2. 東田原集積場の漂流貝類. (A) アッキガイ, (B) アッキガイ, (C) アッキガイ.

北海道の東田原集積場には、2007年8月に大量漂着したアッキガイ (Littorina saxatilis) が観察された。この種は、北海道の石狩湾に広く分布している。本研究では、この種が大量漂着した背景を明らかにするために、東田原集積場の位置と、その周辺の地形、気候、および海洋環境について調査を行った。調査の結果、東田原集積場は、石狩湾の中央部に位置し、水深が浅く、潮の干満による水位変動が大きい。また、この集積場には、多くの漂流物が堆積しており、その中には、アッキガイの殻や、他の貝類の殻、魚骨、プラスチックなどのゴミが含まれている。これらの結果から、東田原集積場は、漂流物の堆積場として機能していることが明らかになった。また、アッキガイの大量漂着は、この集積場の環境変化と関連していると考えられる。今後の調査では、この集積場の環境変化をさらに詳しく調査し、アッキガイの大量漂着のメカニズムを明らかにする必要がある。